

月	栽培管理
1~2	<p>【石灰の施用】 苦土石灰 200kg/10a 土壌酸度を適正に保つ。 葉色の悪い園では、マルチサポート 80kg/10a を施用する。</p> <p>【収穫】 12月以降3月にかけて糖度は上昇し、クエン酸濃度は低下する。外観にとらわれず、食味を確認してから収穫するが、凍害が心配される場合や地域では早めに収穫することもある。</p> <p>【収穫】 2月下旬以降</p> <p>【貯蔵】 貯蔵は貯蔵箱やコンテナを使用し選果をしてから行う。湿度保持のため数枚の新聞紙で覆う。コンテナを利用する場合は七分目の入庫量とし4~5段積みにて不織布で覆う。この時期の貯蔵庫は入庫量が少ないので湿度保持に努める。</p>
3	<p>【整枝剪定】 収穫後、ただちに剪定する。 基本は、温州みかんと同じ開心自然型とするが、温州みかん同様の剪定では強すぎるので、逆行枝、側枝の重なり枝の間引き剪定と下垂枝の切り返し程度に控え、樹冠内部に光が入る様にする。樹冠の拡大に努めてきたため、第2亜主枝が張っている肩張り樹形が多いが、結実の様子を見ながら徐々に改善してゆく。 かいよう病対策として、かいよう病被害罹病葉(枝)は原則切除し園外に持ち出し廃棄する。</p> <p>【春肥施用】 (3月中下旬) 特選みかん配合 140kg/10a 施肥後に軽い中耕を行う。</p>
4	<p>【傷果対策】 防風対策と灰色カビ・訪花害虫(コアオハナムグリ・ケシキスイ類)の防除を徹底し秀品率の向上に努める。</p>
5	<p>【夏肥施用】 (6月から梅雨明け前) 特選みかん配合 160kg/10a 2回分肥すると根焼けしにくい。 樹勢の低下している樹では尿素の600倍を散布し樹勢の回復を図る。</p>
6	<p>【摘果】 湘南ゴールドは房状に着果するので葉果比にとらわれず、7月下旬に果実の横径が20mm(1円硬貨の直径)を目安に摘果する。</p>
7	<p>【乾燥防止】 敷きわらマルチ、ナギナタガヤの草生栽培等により梅雨明け後、夏から秋にかけての土壌の過乾燥を防ぐと、果実の酸切れが良くなる。</p>
8	<p>【被覆植物の播種】 (10月上旬~下旬) ナギナタガヤ・ヘアリーベッチの播種 早魃が続くと発芽が遅れるので雨にあわせた播種をする。 播種前に除草し、播種後はごく浅く混和し深く土をかぶせない。</p>
9	<p>【初秋肥】 (9月中旬) 特選みかん配合 140kg/10a</p>
10	<p>【仕上げ摘果・枝吊り】 (9月下旬~10月上旬) 10月以降果実の肥大は緩慢となるので、その前に小玉果、傷果を摘果し果実の大きさをそろえる。果重で枝が折れたり、裂けたりしやすい。果実の重量が増す前に、枝吊り、枝支えを必ず行う。</p>
11	<p>【秋肥施用】 (10月下旬) 特選みかん配合 100kg/10a</p>
12	<p>【鳥獣害対策】 樹上で越冬させるので、ネット、被覆資材等により、鳥害、防寒対策をとる。 電気柵、鉄網柵を園外周に設置する。定期的にメンテナンスを行う。</p>

※湘南ゴールドは樹上越冬させて収穫するため、温州ミカンに比べて凍霜害の被害に合うリスクの高い品種である。凍害にあった果実は、外観が正常でも、果肉がスカスカとなり被害果と分別が出来なくなる場合がある。過去に、温州ミカン、ポンカン、清見等で、凍害、霜害による果実の霜当たり、落葉が起きた所は、栽培に不向きである。